

平成 21 年 7 月 24 日

2 号機における主蒸気逃がし安全弁の配管温度の上昇について

<概要>

(事象の発生状況)

- ・ 2 号機において、主蒸気逃がし安全弁 1 台 (F) の下流側配管温度が上昇する事象が確認されました。

(今後の対応)

- ・ 今後、温度変化の推移について確認していくこととします。
- ・ 当該弁の下流側配管温度が警報値 (150℃) になった場合、プラントの出力を降下させ、当該弁の開閉操作を実施します。

(安全性、外部への影響)

- ・ 本事象による外部への放射能の影響はありません。

(公表区分)

- ・ 本事象は公表区分その他ですが、透明性向上のためお知らせするものです。

詳細は以下のとおりです。

1. 事象の発生状況

平成 21 年 7 月 21 日午後 8 時 57 分に発電を開始し、調整運転中の 2 号機 (沸騰水型、定格出力 78 万 4 千キロワット) において、電気出力を上昇中のところ、7 月 24 日午後 3 時 10 分頃より、主蒸気逃がし安全弁 8 台のうち 1 台 (F) の下流側配管温度が約 85℃から約 130℃まで上昇する事象が確認されました。

2. 今後の対応

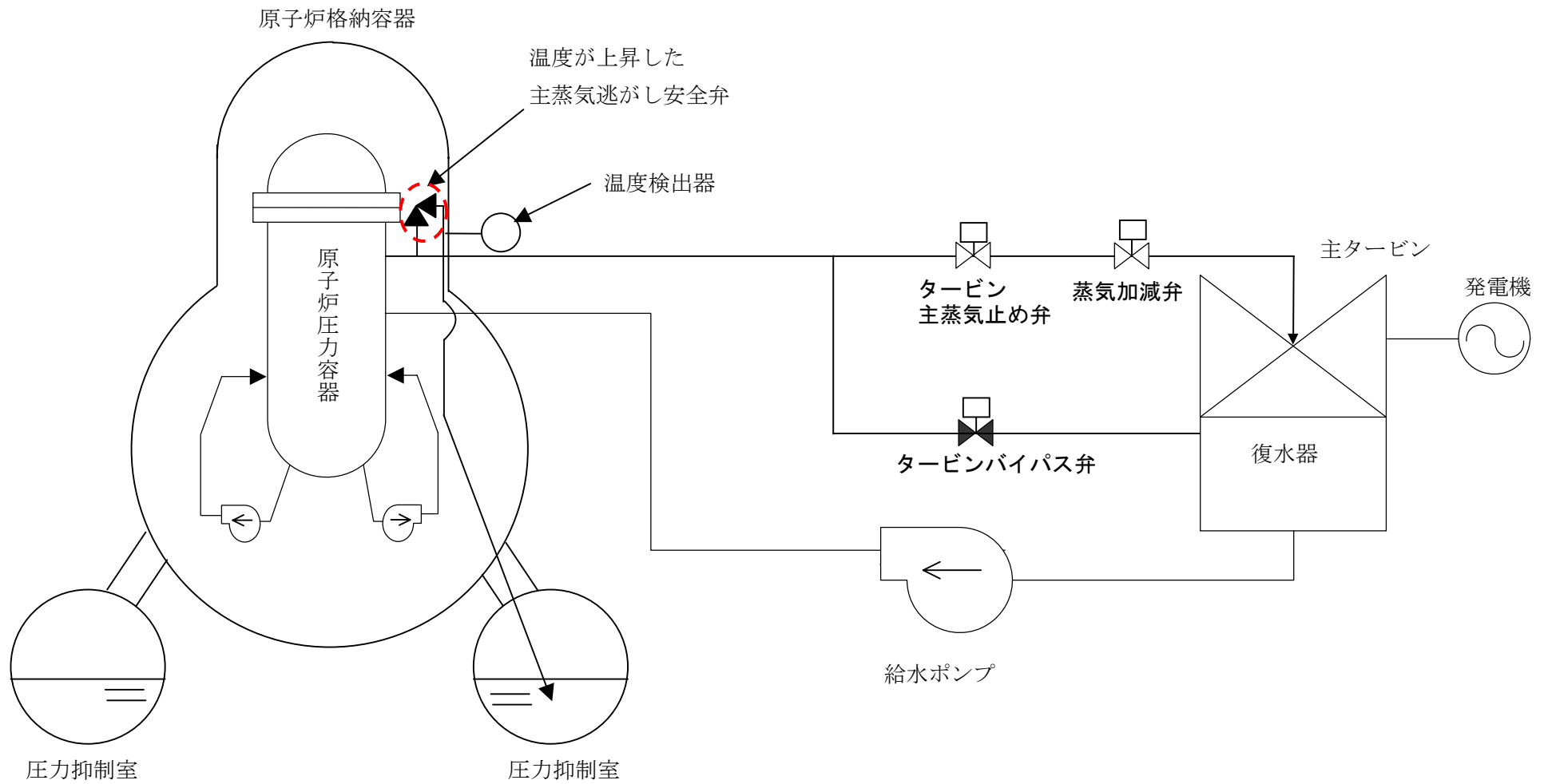
現段階ではプラントの運転に影響を与えるものではありませんが、今後、温度変化の推移について確認していくこととします。

なお、当該弁の下流側配管温度が警報値 (150℃) になった場合、定められた手順に従い、プラントの出力を降下させ、当該弁の開閉操作を実施します。

3. 安全性、外部への影響

本事象による外部への放射能の影響はありません。

以 上



概略系統図